

地区別会議で話し合われたこと

	地域でできそうなこと（網掛け部分はその地域の資源）
中央地区	<ul style="list-style-type: none"> ・この事例ではサービス何入れる？となると危険と思う。 ・今まで暮らしてきたものを活用する。 ・今の生活を崩さずに 痛みのコントロール 食事 運動を改善していく。 ・ジムではどんなことが出来るのか？自分の状況がどうなのか理解してもらう。 ・できることはしてもらう。 ・痛みの緩和が必要なため整形外科受診 整形外科と相談してジムを活用する。 ・胃薬たくさん服用している 食べ過ぎて胃がもたれているのでは？かえってお腹が空くからまた食べてしまう。 ・栄養指導がどこまで必要なのか？ ・誰が指示を出すのか 主治医に意見を聞く。 ・そもそも、「いきいき百歳体操」がどんなものか知らないという職種がまだまだある。 ・A G M C に場所を借りて、いき百開催してみてもは。 ・「こちらが講座しますから集まってください」というスタイルではなく、市民が多く集う所へこちらから出向いていき、健康に関する話をしていきたい。いき百や社協や町会・老人会等、その他「地区祭り」などを活用しては。
小田地区	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいき百歳体操や健口体操の周知促し。 ・地域包括と連携しコグニサイズやミニ講演を行っている。 ・現在のジム等での環境の実態を把握することにより介護予防に繋げていけるのでは。 ・カッコいい男性職員がいるなど女性の意欲が向上するような場があれば。 ・対象者と併走できるような関わりを持てる支援者が必要。 ・今後高齢者が生活していく上で住居を造っていくかが重要。また誰がそのように導いていくのか。 ・平成30年度より地域ケア会議を現在の問題解決型の会議だけでなく、自立支援型の会議も取り入れていく予定。 ・本人が意欲やお金を出すことに同意がないと支援が難しい。 ・地域での喫茶などの集い場の紹介。
大庄地区	<ul style="list-style-type: none"> ・肥満、高齢女性に運動しろと言ってもなかなか出来ない。スポーツクラブのプールで歩いている人もいるため、同じような人を集めて運動できるようにすればいいのではないかな。 ・どうせダメだと思っているのなら、そんなことは無い事を伝え、食事の事を分からせる。糖尿病の薬はそれほど強いものではない。人工関節の劣化が心配。 ・千代木園などでのスポーツへの参加はどうか。 ・包括などでダイエットシリーズを行うなどはどうか。本人自身がダイエットを望んでいるのかどうかも聞き取る必要がある。 ・運動と食事のバランスが悪い。本来、膝の痛みをとるための手術だったが、今の状態ではよくない。 ・本人の意向の中に「痩せたい」が無いことが気になる。 ・いきいき百歳体操の様子が分かるものを本人に見せ、イメージを湧かせる。

地区別会議で話し合われたこと

立花地区

- ・膝の手術後、受診に行かなくなり放置された状態と思われる。まだそのＨＰと繋がりがあるのなら受診に行って地域のＤＲへの紹介状をもらうのがいい。行きにくいなら、地域のＤＲへ直接行き、再評価してもらう。
- ・糖尿病については、教育入院がおすすめ。教育入院では、24 時間血糖値が見れたり、目に見えて体重が減ったりする。目に見える結果ができれば、患者もやる気になるので効果は大きい。
- ・地域の大きなジムも「要支援者」を応援してくれている、バリアフリーにもなっている。
- ・同じ会費で毎日行けることを知らない利用者もいるので声かけをしてみてもいい。
- ・食事に関しては、薬局でパンフレットとかダイエット食品の案内は可能。
- ・ジムにも運動指導士がいるので、そこで栄養について助言もらえるかも。
- ・本人の痛みへの介入はやはり整形外科？受診する方法はどうしたらいいか。
- ・通所リハなど提案するのもいいが、今行っているジムで運動をするように促してみてもいい。
- ・三反田町の障害者センターにリハビリ学級がある（週 1 回、送迎バスもあり）。今年度末までは活動あるが、来年度以降継続できるかは不明であり、新規の受入れは難しい状況。
- ・ジムに行っているので、ＤＲの助言をジムに伝えてもらって、友達とか地域の人たちを巻き込んで一緒に運動ができるようにできないだろうか。
- ・介護保険の「通所リハ」を利用することも可能であるが、せっかく行っているジムがあるので、今使っている資源の活用を優先させたい。
- ・水虫のことも、ヘルパーの声かけで自分で足をあらうことができるのではないかと（自立支援）。
- ・保健所からは、糖尿病のＤＲと相談の上、糖尿病コントロールの指導のため訪問することが可能。
- ・独居の利用者の方と一緒に受診に行くことは多くある。ＤＲからの指示を得ることでヘルパー等事業所にも情報提供できる（地域包括Ｃ）。
- ・現実的に風呂目的でジムに行っている人は多い。
- ・ジムでの入浴は見守りができないので、人によってはＤＳ等への助言をする必要がある。
- ・「いき百」は、立花地区で 15 か所あり、地域でやっていたら行くのは可能。内容は 30 分の体操が基本で、ふれあいサロン（カラオケ、お喋り）と一緒に 2 時間程度で行っているところが多い。
- ・ふれあいサロンと体操なら、孤独感と運動の両方が解決できるのでは。
- ・独居でしっかりされた方の食事について、配色サービス利用の方もいる。バランスの良い配食を利用しているけど、自分でお菓子やラーメンを食べている人も多い。
- ・自分の祖母もジムに通っているが、そのジム自体が高齢者のコミュニティになっていると思う。

地区別会議で話し合われたこと

武庫地区	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の専門家（内科・皮膚科・眼科）にかかっている方について、医師がそれぞれの受診や処方薬を把握されていないことはよくある。それにより重複処方や他疾患への影響など判断が行われないことになる。本人へ医師への報告の促しと、薬局から医師への情報提供は可能。かかりつけ薬局の有無は関係なく対応できる。 ・いき百の半年（1年～）の評価や新しいフォローアップに参入してみたいと考えがある。民間施設や病院のリハビリ職の地域協力の視点である。課題として、それぞれが所属している事業所が費用の発生を希望していること、リハビリの介護サービスとの棲み分けなどがある。 ・病識へのアプローチ、受診やダイエットの働きかけなど看護師として関われる内容である。糖尿病患者に対して、配食サービスを活用した支援『みて・たべて・実感』を行い、体験と改善データにて本人の意欲が向上する手法もある。しかし現状としてそのような支援はサービスの利用が条件である。その他サービス発生なく行えることは、ケアマネジャーや地域包括などに利用者の健康状態や医療面アプローチに関する助言はできる。相談だけに終わっても遠慮なく連絡はもらっていい。 ・今回の事例の利用者は『自立している人』と位置付けられると考える。自分で考えて動ける人であり、実際ケアマネジャーが支援に時間をかけたり優先度を高く対象にはなりにくい。介護・保健における栄養指導の必要性も気付いているが、地域に栄養士の資源が不足していることは課題である。訪問看護の具体的支援を聞き、そのような手法があるのなら提案や計画につなげたい。 ・武庫西地区情報＝博寿苑こども食堂、おはなしとおうたのサロン。コーディネーターが初回同行したり、お世話役の方にさそってもらうようにつないだりできる。
園田地区	<ul style="list-style-type: none"> ・教育入院をしたら、5k～10k 落ちる。入院中に栄養・運動等の指導を受ける。 ・退院後、居宅管理栄養指導。日課として、体重測定、食事内容の記録も行う。カロリーオフの食事の提供。 ・糖尿病の疾病あり。歯科治療は必要。水虫もあり、フットケアも必要。膝の痛みについて、整形受診をする。本人、理解力あり、やる気も見えるので、自分の事を知ってもらう。 ・スポーツジムについて、スタッフに認知症の理解を得る事が必要 認知症サポーター養成講座をしたい。 ・外出の移動について、ノンステップバスの活用、運転手が介護の資格、理解をしてもらう。福岡のタクシーの話があり、荷物等対応してくれ、とても親切だった。地域ぐるみでタクシーやバスの運転手の質をあげていけたらと思う。